

中国ボディビル界における黒人運動能力神話の探究： 質的研究

スポーツ文化研究領域

5022A090-1 劉 永欣

研究指導教員：川島 浩平 教授

第一章 問題の所在と本研究の目的

フィットネス文化の世界的な高まりは、プロポーション、無駄のなさ、筋肉質であることを強調し、理想的な身体基準を形成してきた。このトレンドは、筋力トレーニングによる身体改造を目的としたジム通いの増加につながっている。伝統的には、特定の食事と運動療法を伴う競技的な重量挙げと定義されているが、ボディビルは、定期的な筋力トレーニングによる肉体改造を求めるすべての人に広く適用される。

ボディビルの歴史は19世紀半ばに遡り、西洋の「ストロングマン」たちが体育やトレーニング技術に影響を与えた。その中心人物であるユージン・サンドウは、1901年に初めて大規模なボディビルコンテストを開催し、それまでのウェイトリフティングからの転換を図った。当初は白人男性が中心だったボディビルは、1940年代から黒人アスリートを取り込むようになり、やがて20世紀後半には黒人アスリートが卓越し、このスポーツを支配するようになった。

ボディビルにおける黒人選手の活躍は、人種の運動能力への関心をかき立てた。現代のボディビルはより包括的であるように見えるが、人種的な表現における格差は根強く、黒人アスリートがしばしばクローズアップされる。本研究では、中国のボディビル・コミュニティに焦点を当て、「黒人はナチュラル・ボディビルダー」といったステレオタイプが、この特殊な文化的背景においてどのように認識され、ボディビル参加に影響を与えているかを調査する。

第二章 先行研究の検討

第二章では、ボディビルにおける人種的ダイナミクスに関する既存の研究をレビューし、主に黒人と白人と二分法を扱った限られた文献に焦点を当てている。そして、より広範な人種間のダイナミクスを探求する必要性を強調し、スポーツとそのアスリートに影響を与える、自然な運動能力という「黒人神話」のようなステレオタイプについて考察する。これは、中国のボディビルダーがどのようにこのステレオタイプを認識し、相互作用するかを理解するための基盤を設定する。

この章では、黒人ボディビルダーに対する差別や競技の審査基準の変遷など、ボディビルにおける歴史的な人種的偏見について議論する。ミスター・アメリカのような大会での偏った審査から、ミスター・オリンピアではより包括的なアプローチに移行し、筋肉美を重視するようになったことを指摘する。この章では、このスポーツにおける黒人ボディビルダーの認識に影響を与えているステレオタイプについても触れている。

黒人アスリートは天賦の才能があるというステレオタイプについて、その蔓延とそれをめぐる議論に焦点を当てながら検証している。この章では、人種神話に関する研究をレビューし、人種間の認識の違いや、運動能力における生物学的決定論への批判を示している。また、中国における根強いステレオタイプについても言及し、黒人アスリートの能力に関する西洋と中国の見解を対比している。

第三章 方法論

この研究の方法論は、参加者の複雑な認識や経験を深く探るために、質的研究、特に主題分析に根ざしている。スポーツとボディビルにおける人種とその影響を理解する上で不可欠なこの参加者中心のアプローチは、隠れたパターンとテーマを明らかにするために帰納的推論と演繹的推論の両方を用いて、個人と集団の経験をニュアンス豊かに探求することを可能にする。

参加者の選定は、研究の深みと妥当性にとって非常に重要である。この研究では、中国のボディビル・コミュニティから 14 人の参加者を選んだ。無作為抽出とスノーボール・サンプリングを併用し、参加者をボディビルに関わるか否かで分類。この多様性は、様々な関与レベルにおいて、エスニシティとボディビルとの交差を探るのに役に立った。

データ収集は、インフォームド・コンセントを確実にするため、参加者に詳細な情報を提供しながら徹底的に実施する。人種がスポーツやボディビルの成功に与える影響を中心とした半構造化インタビューは、参加者が自由に表現することを可能にし、豊かで個性的な洞察につながった。多様なインタビュー設定、参加者主導のインタビューと記録方法によって、包括的で信頼できるデータ収集が実現する。

第四章 結果

その結果、スポーツにおける「黒人神話」のステレオタイプは、教育、メディア、個人的な経験の影響を受けて、参加者の間で一致して信じられていることが明らかになった。特に陸上競技とバスケットボールでは、教育がステレオタイプの形成に重要な役割を果たし、メディアはそれを強化した。スポーツ交流における個人的な経験もまた、体力の人種差に関するこれらの信念を検証した。

この研究では、人種がボディビルの成功に影響するという認識について調査した。参加者は、大会に出場する黒人ボディビルダーの割

合が高いことに注目し、ボディビルにおける黒人選手の自然な優位性を信じるようになった。プロのボディビルダーは、筋肉の組織などの身体的な違いを指摘し、より深い洞察を提供した。しかし、プロのボディビルダーは、戦略的なトレーニングやパフォーマンス向上薬物によって、生まれつきの優位性を埋め合わせる可能性を認識しており、この見解に対する挑戦も明らかになった。

第五章 結論と考察

この研究では、人種的ステレオタイプ、特に黒人神話に焦点を当てて、中国におけるボディビルを調査した。それによると、中国のボディビルダーたちは、黒人アスリートの生まれつきの能力を認める一方で、このスポーツでの成功は、集中的なトレーニング、食事、パフォーマンス向上薬物など、さまざまな要因の組み合わせであると感じている。これは、人種的属性だけでボディビルの成功が決まるとする見方に疑問を投げかけるものだ。

ボディビルにおけるパフォーマンス向上薬の使用には、大きな文化的変化が見られ、エリート選手による独占的な使用から、広く組織的な採用へと移行している。この変化は、薬物使用が合理化され、競争上の要求に対する必要な反応とみなされ、効率と最大限のパフォーマンスを優先する文化と一致する、進化するボディビル文化を反映している。

この研究の結論は、中国のボディビルにおけるパラドックスを浮き彫りにしている。「黒人神話」が参加者の間で広く受け入れられている一方で、プロのボディビルダーはこのステレオタイプに対抗するために、しばしばパフォーマンス向上薬を使用している。皮肉なことに、このアプローチは、彼らが挑戦することを目的とする神話そのものを不注意にも強化し、身体能力における人種的優位性の概念を永続させることになるのだ。